

## 三番瀬海生生物現況調査 (魚類着底状況)業務委託

委託者:千葉県環境生活部自然保護課  
受託者:株式会社 パスコ

## 調査内容

三番瀬の生態系について中長期の変動を含めた自然環境の把握をする。

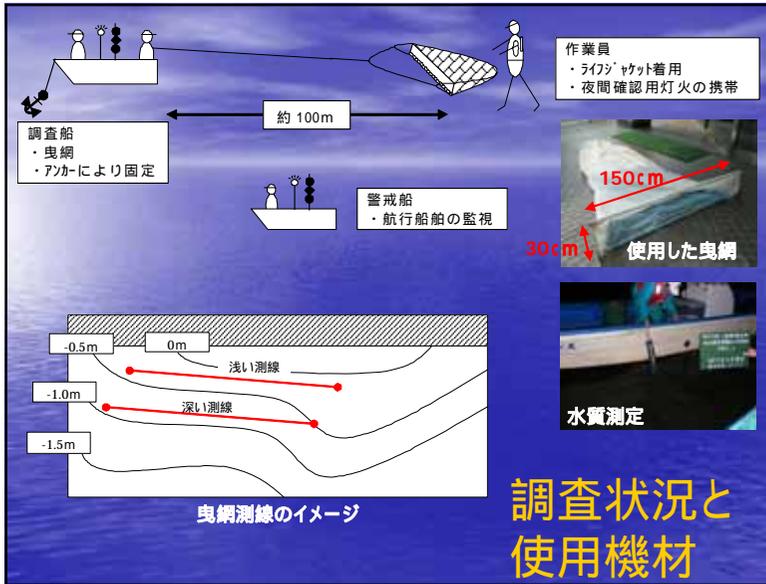
- 着底稚魚採取(4~3月までの月1回夜間)
- 確認種の出現状況、分布
- 過去2回の調査(平成8・9年度、平成14年度)との比較

## 調査地点



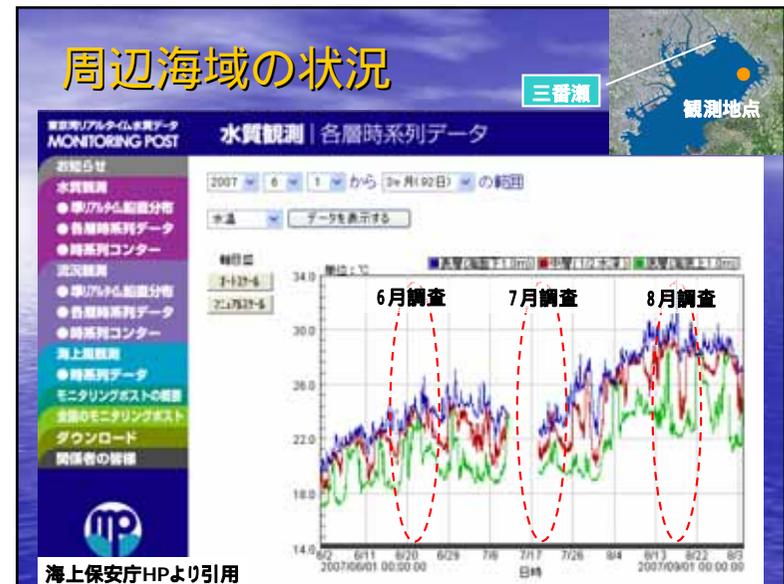
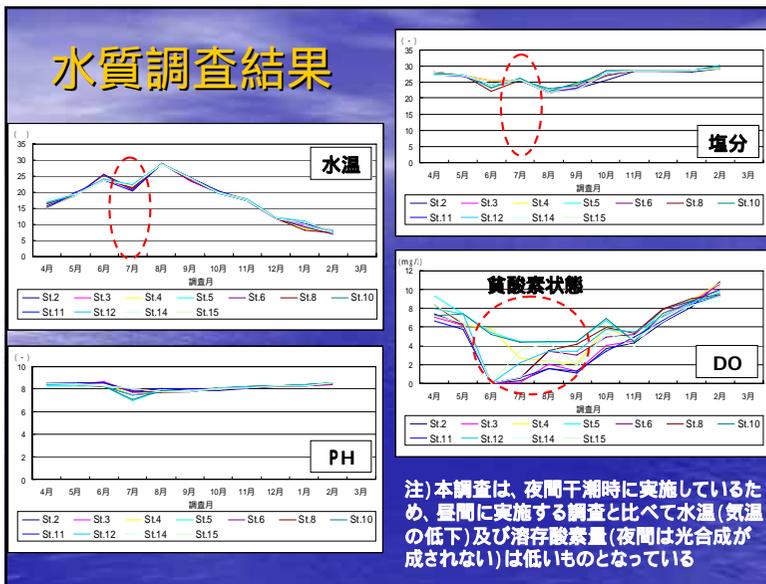
## 調査方法

- 各地点の2水深(10~20cm、50~70cm)において曳き網(口径:縦30cm、横150cm、目幅2mm)を汀線に平行に0.5m/sec程度(約1ノット)の速さで約100m曳網して、着底稚魚を採集
- 調査時における水温、塩分、pH、溶存酸素を多項目水質計により測定
- 調査は夜間の最干潮時の3時間前から1時間後までの間で実施



### 調査時の状況

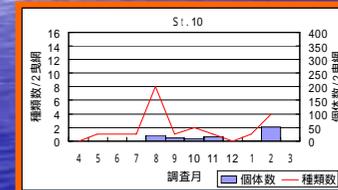
調査月	天候	気温( )	風向	風速(m/s)	備考
4月	曇り(27日)	14.6	南西	3	25日に前線を伴った低気圧が通過
	晴れ(29日)	16.8	南南西	2	
5月	曇り(14日)	18.1	南南東	1	13日に停滞前線が接近
	晴れ(15日)	15.1	西北西	1	
6月	曇り(22日)	21.3	北西	1	
	曇り(23日)	22.1	南西	3	
7月	曇り(19日)	19.9	東	1	15日に台風4号通過
8月	曇り(19日)	27.0	南西	3	2-3日に青潮発生 7日に台風9号が通過し、行徳河口堰が9/7~10開放
9月	曇り(13日)	22.7	北東	1	
10月	曇り(15日)	17.4	北東	2	
11月	晴れ(13日)	13.7	北	1	
12月	曇り(11日)	8.8	北北西	1	
1月	曇り(9日)	8.5	北北西	1	
2月	晴れ(5日)	3.5	北西	1	
3月	曇り(7日)	6.5	北東	2	



## 着底稚魚調査結果

調査月	種類数			個体数	優占種	
	科	属	種			
4月	8	12	16	1,835	マハゼ	ウキゴリ属
5月	8	12	16	4,348	ウキゴリ属	マハゼ
6月	8	9	10	514	ニクハゼ	マハゼ
7月	4	8	8	1,654	ニクハゼ	マハゼ
8月	13	16	17	537	ニクハゼ	ギマ
9月	13	18	21	605	ニクハゼ	ギマ
10月	8	12	14	209	ヒメハゼ	マゴチ
11月	9	13	14	84	ヒメハゼ	
12月	5	10	12	129	ヒメハゼ	
1月	5	8	9	130	ヒメハゼ	
2月	7	11	12	588	イシガレイ	ヒメハゼ
3月	分析中					
合計	27	37	46	10,633	マハゼ	ニクハゼ

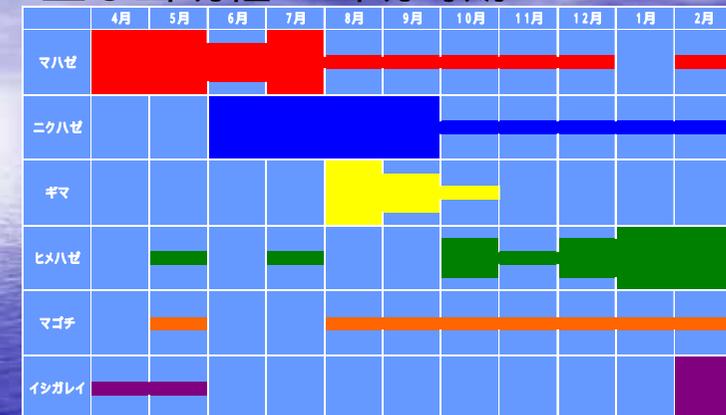
## 地点別種類数/個体数の比較



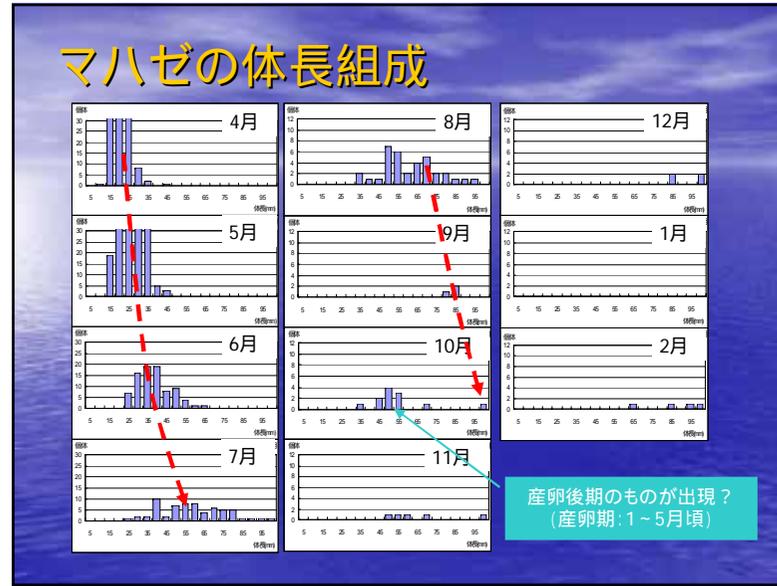
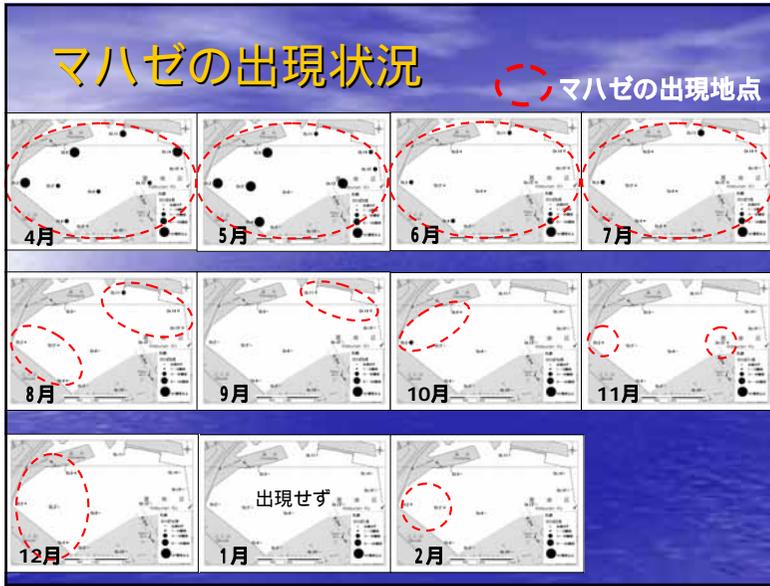
## 主な出現種



## 主な出現種の出現時期



注) 図中の太さの目安は、太い線から順に 100個体以上、50～100個体、1～50個体で示している。



- ### 過去2回の調査との比較
- 平成8,9年度 環境対策検討調査
    - ・1~12月までの月1回実施
  - 平成14年度 三番瀬海生生物現況調査(魚類着底状況)
    - ・11~3月までの月1回実施(夜間)
    - ・16地点の2水深



## 種類数と個体数の比較

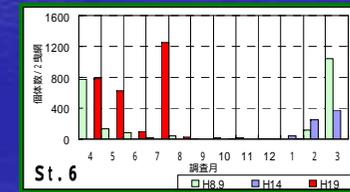
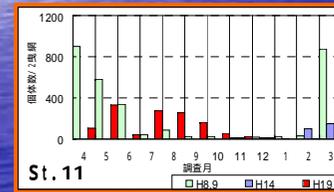
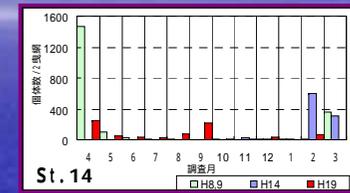
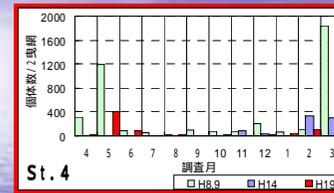
調査月	調査期間	地点数	種類数	平均個体数 /地点/月
平成8,9年度	1～12月(2カ年)	4	46	118.1
平成14年度	11～3月(5ヶ月)	11	25	114.6
本調査	4～2月(11ヶ月)	11	46	87.9

注) H8,9年度、H14年度の地点数は、本調査と同地点のみ抽出

11～2月	種類数	平均個体数 /地点/月
平成8,9年度	17	21.5
平成14年度	21	79.3
本調査	23	21.2

注) H8,9年度、H14年度の地点数は、本調査と同地点のみ抽出

## 地点別個体数の比較



## 主な出現種

- 平成8,9年度調査
  - イシガレイ、マハゼ、ヒメハゼ、ギンポ
- 平成14年度調査
  - イシガレイ、ヒメハゼ、マコガレイ、スズキ
- 本調査
  - マハゼ、ニクハゼ、ヒメハゼ、イシガレイ

## まとめ(生息環境)

- 三番瀬奥部では6,7月に貧酸素状態になったが、沖合いのDOは4mg/l以上で推移していた。
- 水温、塩分、pHについては、調査地点間で大きな違いはみられなかった。

## まとめ(着底稚魚)

- 出現種類数は夏季が多く(最多13種、8,9月)、出現個体数は春季が多かった(最多4,348個体、5月)。
- 主な出現種は、春季はマハゼ、夏季はニクハゼ、秋季はヒメハゼ、冬季はイシガレイが多かった。
- 最も多く出現したマハゼの分布をみると、春季は三番瀬全体で出現したが、その後は猫実川河口など岸近くの調査地点にみられた。

## まとめ(過去調査との比較)

- 出現種類数は、過去2回の調査と比べて多かった。
- 出現個体数は、全体的には少なかったが、夏季が過去調査(平成8,9年度)よりも多かった(ニクハゼ、ギマが優占)。
- 主な出現種は、過去2回の調査と比べてニクハゼが多くみられたものの、それ以外で大きな違いはみられなかった。